

2024年	2月	一般社団法人日本中医協会の設立大会が東京の中国文化センターで開催された
2023年	10月	一般社団法人日本中医協会設立。理事長は吉永恵実博士、会長宋靖鋼博士
	5月～6月	政府が「緊急事態」宣言を解除したことを受け、6月には久しぶりに納涼会と理事会を開催した。この会合では、協会の第1期役員任期が満了し、新たに第2期理事会が選出された。
2022年	1月	新型コロナウイルス感染症の第六波に対して、中華人民共和国大使館の孔朝総領事と相談の上、日本頭条直播間で、第六波疫情対応に関する生放送を実施した。
2021年	8月～10月	「活躍在日本的中医人～養生与治療」の15回連載を開始した。 「中医健康大講堂」を開設し12回連載を行った。これにより、華僑・華人の皆さんに、中医薬による予防、保健、養生、治療の知識と経験を広めることができた。
	8月	日本政府が「緊急事態」を宣言した。
	7月	中文導報と協力し、「中医防疫專欄」15回にわたる連載。同時に、会員が経営する50の診療所、薬局、院などを「日本中医協会推薦の診療所・薬局・院などの一覧表」として公表した。
	6月	日本の医療界に中国の防疫・抗疫における中医の経験を紹介し、東洋学術出版社に依頼し『COVID-19と中医学』を正式に出版した。
	6月	総領事からの「抗疫のために中医協会の専門家を各華僑・華人団体に派遣してほしい」という要請に応え、一省につき1名の専門家を原則として、合計30名を超える中医専門家が各省の団体に推薦された。6月中旬までに派遣された専門家たちは、1,263名の方々の相談に応じ、304名の患者に中薬、気功などの治療を施し、高い評価を受けた。
	3月	9名の会員が『中医防治疫の建議』という小冊子を作成し、在日の華僑・華人に配布した。
	2020年	1月
2019年	12月	忘年会を開催。協会法人化を議論した。
	10月	東京華僑総会（銀座）で「令和元年中医学健康祭り」が開催された。開幕式に中華人民共和国駐日本大使館詹孔朝総領事が祝辞、東洋学術出版社 井上匠社長が『中医基本名詞術語中日英対照国際基準』の正式に出版することを発表した。130名の方が参加された。その後、学術講演会は5名の講師の講演と八段錦・太極拳の練習、10名の中医師・医師の会員が経営する診療所・薬局によって無料漢方相談を行った。91名の方が健康診断と漢方相談を受けた。
	8月	納涼会を開催、議題①本協会の名称を「旅日華人中医学協会」から「日本中医協会」に改名、②藍澤宝珠を事務局長に就任の提案、③10月に「令和元年中医学健康祭り」の提案。参加者は全員賛成した。
2018年	12月	忘年会を開催した。
	2月	新年親睦会を開催、「傷寒雑病論の漢方及び経方」の交流会で司会は路京華、講師は王晓東と許志泉。王晓東は気功体操を教えた。40余りの会員が参加した。
2017年	11月	『中医基本名詞術語中日英対照国際基準』日本国際標準制作委員会を設立した。本協会は制作委員会のメンバーとして、43名の会員が参加し、一年間の制作活動になった。
	8月	第2回学術交流会テーマ「フレイルの中医薬治療」常務副会長の賽序波が司会、菅沼栄先生が講演を行った。11名の会員が参加した。
	6月	第1回学術交流会。テーマ「よくある婦人科疾患の中医・漢方治療」常務副会長の賽序波が司会、何仲濤・李向軍副会長が講演を行いました。19名の会員が参加した。
	4月	辰巳洋と賽序波と汪先恩3位博士発起人として「旅日華人中医学協会」が設立した。主旨として「日本にいる中医学の専門家を結集し、共に中医薬事業を始める」汪先恩が理事長、辰巳洋が会長、賽序波が常務副会長に就任した。何仲濤、李向軍、宋靖鋼、吉永恵実、易曉航、前田学光、陶恵栄が副会長に就任した。設立大会が東京の中日友好会館で開催された。